05年　マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円／kg

年	数量 漁獲	産地	輸出 生冷	輸出 缶	消費地 生	消費地 塩干	在庫	加工品 缶	加工品 身ｶｽ	加工品 塩蔵	加工品 煮干	加工品 塩干	生産	輸入 ﾐｰﾙ	輸入 生・冷	消費支出 生(ｸﾗﾑ)
16	50	27.9	2.2	0.1	19.5	12.5	21.3			1.7	25.6	0.8	398	30.5	1,012	
17	28	9.8	1.5	0.1	13.6	11.5	17.4			0.8	29.6	1.0	373	33.6	801	
%	56	35	69	78	70	92	82			48	116	119	94	110	79	

年	価格 産地	輸入 ﾐｰﾙ	輸入 生冷	輸出 生冷	輸出 缶	消費地 生	消費地 塩干	消費支出 生(円)
16	181	76	77	86	571	364	887	836
17	240	76	87	93	538	381	877	699
%	133	100	113	108	94	105	99	84

海域	16年	17年	対比(%)
道東	0	0	
三陸	2	2	79
常磐	21	6	29
九州	0	1	461
山陰	0	1	
その他	4	1	28

MAX S63年、4488千トン

漁獲量と資源

17年のマイワシの漁獲量は、2.8万トンと前年の5万トンを大きく下回り、近年でも最低の水準を更新し1970年以前の低水準時代の数量であった。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシが2,360トンで前年（約5.4万トン)を上回った。北部太平洋海域では三陸・常磐とも前年を大きく下回るであったが、周年を通じて山場のない漁が続いた結果である。また、近年漁獲の急減をみている山陰でも、多少混獲主体に漁獲があった程度であった。

太平洋系群のマイワシ資源は1981年に1,500万トンを超え、1988年まで1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年には88万トンとなった。1995～1999年は70万を越えて低水準ながら比較的安定していたが、2000年から再び減少傾向となり、2003年は10万トン台、2004年も13万トンと推定されている。また、2005年はやや回復し15万トンと推測されている。

対馬暖流系群の資源量も1989年以降、急激に減少し続けている。1989～1994年の資源量は100万トン以上であると計算されたが、1995年以降は100万トンを下回り、1997年以降は10万トン以下、2001～2003年には1万トン以下になった。卵稚仔調査において、2001年には卵がほとんど採集されなかった。2002～2003年には少量の卵が採集されたが、産卵の水準は依然として極めて低位にある。

産地水揚量と価格

17年の水揚量は、1万トンで引続き前年（2.8万トン）を大幅に下回った。こうした低調な水揚げを反映して価格は、240円で前年（181円）をかなり上回った。

北部太平洋海域での漁は、昨年以上の凶漁で殆どまとまった漁がみられなかった。

なお、本年のミール相場も、年明けの10万円から始まり年末まで続いた。したがって３年連続市況変動はなく、本年も堅調相場であった。

三　　陸

17年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の4､5月は昨年同様皆無、夏場にかけて昨年を若干上回ったが、水準としては低かった。

三陸(単位:1000トン)			常磐(単位:1000トン)		山陰(単位:1000トン)		日本海北(単位:1000トン)	
月	16年	17年	16年	17年	16年	17年	16年	17年
1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
5	0.0	0.0	1.7	1.6	0.0	0.2	0.0	0.0
6	0.1	0.0	2.7	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.0	0.6	4.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
8	0.0	0.7	3.6	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0
9	0.2	0.3	1.8	2.2	0.0	0.3	0.0	0.0
10	0.8	0.1	1.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
11	0.4	0.0	2.3	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0
12	0.8	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2.3	1.8	20.9	6.2	0.0	1.4	0.0	0.0
MAX	S61年1097千トン		MAX S58年822千トン		MAX H元年713千トン		MAX	

秋から冬場の南下期は昨年以上に低調で、この海域ではほぼ皆無といって良い状況であった。

魚体は、周年を通じて2004年級群主体に漁獲された。

常　　磐

17年の常磐での漁況は、初漁期は前年同様皆無、その後の北上期も前年並みにとどかず低調に推移した。また、後半の南下期は低調でほぼ皆無の状況が続き、来年に不安を残した。

魚体は、周年を通じて2004年級群主体であった。

山　　陰

17年の山陰での漁況は、昨年よりは上向き、夏場から秋にかけて混獲主体に水揚げがみられた。

また本年も上半期3～6月にカタクチイワシが昨年以上にまとまって漁獲され、水揚げも倍増した。

在　庫　量

本年の平均在庫量は、各月を通じて前年を下回った結果1.7万トンで引続き前年(2.1万トン)を下回った。これは、特に低水準な資源水準から、国内生産は昨年を更に下回ったことと、輸入量も大きな伸びがみられなかった事などによるものである。越年在庫は1.9万トンで前年(2万トン)を下回る少なさでのスタートとなった。

輸　出　入

本年の輸入ミールは、37.3万トンで前年（39.8万トン）をやや下回った。

輸入ミールは２１世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2002,2001年間は40万トン台に輸入量も回復しつつあったが、本年は３年続きの30万トン台の後半にとどまった。

また、平成７年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、現在では、依然この両国が主体で（夫々21,410トン、9,023トン）缶詰主体に鮮魚向けにも時には利用・販売されている。また、その他南アフリカ、ナンビア、カナダ等からも輸入されている。また国内漁獲の不振を受けてしたがって本年は、3.4万トンで前年（3万トン）を引続き上回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っており、本年は更に

少なくなり0.1千トンで前年（0.1千トン）をやや下回り、近年の最低を今年も更新した。
　また、冷凍輸出は国内漁獲が引続き低水準であったことを反映し1.5千トンと少なかく前年(2.2千トン)をも下回った。
　価格は、缶詰が538円で前年（571円）をやや下回り、冷凍は93円で前年（86円）をやや上回った。

消費地入荷量と価格

　本年の10大都市の入荷量も、1.4万トンで前年（2万トン）をかなり下回り、産地での不振を反映し、依然低水準にとどまっている。
　マイワシは近年の産地漁獲量も最低の水準まで落ち込んでいることから、消費地でのマイワシの入荷も減少傾向にあるが、昨年は止まった格好になったが、再度減少に向かった。
　価格は、381円で前年（364円）をやや上回り、これは若干入荷の減少によるものである。家計消費でも数量、金額とも減少がみられており、再度消費需要の落ちこみもがみられた。
　塩干は、1.2万トンで前年（1.3万トン）をやや下回った。